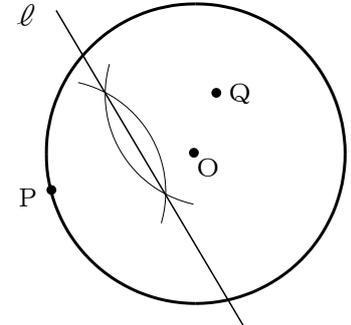


問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
<p>1</p> <p>[問 9]</p> <p>配点 6 点</p>		<p>○線分PQの垂直二等分線の作図の方法を用いて、点Pが点Qに重なるように1回だけ折るときの折り目と重なる直線ℓが正確に示されている。</p>
<p>2</p> <p>[問 2]</p> <p>配点 7 点</p>	<p>円柱の側面は、縦の長さが h cm、横の長さが底面の円周の長さに等しい長方形だから、</p> <p>側面積は $2\pi r \times h = 2\pi rh$</p> <p>底面積は πr^2 となる。</p> <p>したがって、表面積Qは、</p> $Q = 2\pi rh + 2\pi r^2 \quad \dots\dots\dots (1)$ <p>$\ell = 2\pi r$ だから、</p> $\ell(h+r) = 2\pi r(h+r)$ $= 2\pi rh + 2\pi r^2 \quad \dots\dots (2)$ <p>(1), (2)より、$Q = \ell(h+r)$</p>	<p>○(柱体の表面積) = (側面積) + 2 × (底面積) の考え方によって、円柱の表面積を、文字を用いた式で表されている。</p> <p>○$Q = \ell(h+r)$の両辺について、それぞれを h, r の文字を用いた式で表し、等式が成り立つことが的確に示されている。</p>
<p>4</p> <p>[問 2]</p> <p>①</p> <p>配点 7 点</p>	<p>$\triangle ABP$と$\triangle ARP$において、</p> <p>仮定から、</p> $BP = RP \quad \dots\dots\dots (1)$ <p>半円の弧に対する円周角だから、</p> $\angle APB = 90^\circ \quad \dots\dots\dots (2)$ <p>(2)より、$AP \perp BR$だから、</p> $\angle APB = \angle APR \quad \dots\dots\dots (3)$ <p>共通な辺だから、</p> $AP = AP \quad \dots\dots\dots (4)$ <p>(1), (3), (4)より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、</p> $\triangle ABP \equiv \triangle ARP$	<p>○証明に必要となる、長さの等しい辺や大きさの等しい角について、根拠を明らかにし、その関係を式で表すことができています。(3か所)</p> <p>○合同条件を正しく書き、結論を導くことができています。</p>

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお、受検者の実態等に応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・ 「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・ 「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・ 「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。